

求む、新鮮力!

福智町職員
採用試験

今年入ったニューフェイスも全力で駆け抜けています。



■ 第1次試験日

10月14日

■ 試験内容

教養試験、職場適応性検査 ※ 一般事務Dは専門試験あり。

■ 受付期間

8月6日～**9月7日** (平日8:30～17:15)

■ 申込方法

- ▶ 試験案内と申込用紙は、福智町役場総務課、赤池支所、方城支所で配布します。
- ▶ 来庁できない場合は、郵送請求または福智町公式サイトからダウンロードしてご入手ください。
- ▶ 申込用紙に記入し、9月7日までに福智町役場総務課人事係(本庁舎3階)へ持参または郵送してください。
- ▶ 郵送で請求する場合は封筒の表に「採用試験申込書請求」と朱書きし、120円切手(速達の場合は390円切手)を貼った宛先明記の返信用封筒角2号(A4版)を同封して送付してください。くわしくは右記までお問い合わせください。

■ 試験区分・受験資格

- ① 一般事務A ▶ 5人程度
昭和52年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた人
- ② 一般事務B (身体障がい者対象) ▶ 1人程度
※ 次の要件をいずれも満たす人
① 昭和52年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた人で、身体障害者手帳(1級～6級)の交付を受けている人
② 自力で通勤することができ、かつ、介護者なしに一般事務職として職務の遂行が可能な人
③ 活字印刷文による出題および口頭による面接試験に対応できる人
- ③ 一般事務C (一般事務兼学芸員) ▶ 1人程度
※ 次の要件をいずれも満たす人
① 昭和52年4月2日以降に生まれた人で、大学または大学院において歴史学または考古学の専門課程を修め学芸員の資格を有する人
② 卒業後3年以上の発掘および整理作業経験並びに報告書作成の実績がある人
- ④ 一般事務D (一般事務兼保育士) ▶ 2人程度
昭和52年4月2日以降に生まれた人で、保育士の資格を有する人または平成25年3月末までに取得見込みの人

☎ 福智町役場総務課 人事係 ☎ 22-0555

福智の風

▶ 町の医療制度が大幅に拡大。今回の改正で、若年層の定住化が進み、人口増加につながってほしい。(久原)
▶ やる気を伝えるため、灼熱の河川敷を何本も走りました。左右に比べ、すまし顔が逆に恥ずかしく…。(相原)

おわびと訂正

広報ふくち7月号の「四季の歌」に誤りがありましたので、次のとおり訂正して、おわびいたします。

赤池隣保館句会

山里の代田に落つる月の影
そよ風に摘みし野苺手にあまる
睡蓮の葉に乗り蛙鳴きだしぬ
通り雨紫陽花色を深めけり
夏めくや棚田に落つる水の音
青空へ枝うち広げ合歡の花
花菖蒲映して彩の混み合へる

池田 一步選
安田 健一
小笠原雄子
久松ミサオ
小場 妙子
熊谷カヅミ
丸山 鈴子
吉田 弘

方城句会

列なして茅花手招きして揺れる
ちゃんづけで呼び合ふ六月クラス会
さり気なく咲いて菖蒲にある矜持

池田 一步選
千手 弘子
大久保幸子
池田 駒女
藤井耿之介
渡邊 一枝

四季の歌

俳句・短歌教室の詠歌紹介

はな・落の憂句会

朝ぼらけ名を告げておる時鳥
で、むしや爪先上り武家屋敷
蜷の道田螺の道と交差して
高千穂の雲海今も眼裏に
一山をずぶ濡れにして梅雨烈し
百余年恙なく生き天の川
紫陽花の雨後の色とは際やかに
朝戸繰り涼しく今日の風通す
青鷺の飛び立つ空や夫徳ぶ
梅雨らしく降って安らぐ四葩かな

池田 一步選
山本ひろし
香月 眸
高津 澄子
熊谷カヅミ
本島真知子
桑野 園女
井上タミ子
永末 公恵
日高八重子
松本 三男

福智町金田公民館俳句教室

風鈴の音が客呼ぶ骨董屋
霊山の夜明け紫沙羅の花
お下がりを目まで隠れて夏帽子
虹といふ土産を残り雨過ぐる
三世代同居を誇る鯉のぼり
雨蛙喉ふくらませ大合唱
竹皮をすつくと脱ぎて青年期
浜木綿の香りを広げ海の風
夜もすがら語るはらから明易し
海開き一の太鼓は神に打つ

岩井鬼童選
建部三由紀
松岡 篤枝
山本 空木
西田 真美
仲谷ひろえ
長副美恵子
迫田 昌子
今井三千代
小野 美幸
日比生利子

方城句会

石積みの棚田の由來苔の花
雨に散り路上明して凌霄花
青田風人生を濃く生きて逝く
かわりはなけれど眼につく余り苗
観音の指より落つる滝しぶき
時鳥発声練習高らかに
蓮の葉に水玉のせて朝風に
地団広げふれ合っている夏帽子
糸とんぼ風にさそはれ宮参り
一鉢の紫陽花抱いて娘は越して

池田 一步選
白石 凡子
杉 フジエ
長尾 冨子
長末 耕一
藤井耿之介
渡邊 一枝
朝部さよ子
尾崎 和子
木村 誠一
倉石嘉代子

ともしび短歌会短歌詠草

すでに亡き人の分けくれし半夏生楓の下に白きわまりぬ
心杏ちゃん乳房を押へ喉鳴らしゴクンゴクンその無心美し
「音立てて桔梗はぼんと開くのよ」おどけし女は彼岸へゆきぬ
窓を開け庭に啼く鳥さがせどもさえずりばかりの梅雨のひととき
代掻きを終へたる田の面を渡る風さざ波立ちて夕日にかがよふ
雨の朝出番きたりと得意気にかわすの鳴くや水田あふるる
久びさの梅雨の晴れ間を洗濯す心の湿り共に乾かし
いつの間に巣を造りしや鶴鴛の雛が口あく安土の屋根裏

三村 和子
福田キヨ子
高村 三也
前田 信子
桑野 昭子
白石 清和
越智 早苗
福田 昌